



レインボーネット Rainbow Net

れいんぼーTopics

みなで楽しく奏でるハーモニー!



大人気のおやつづくり (^o^)



真剣! リハビリ中!!



即で季節を体感❀外出行事



好みの活動を選んで取り組みます

今から27年前の平成8年にスタートした宮古市社会福祉協議会障がい福祉サービスセンター。当初は身体(やすらぎデイ)・知的(ひまわりデイ)の障がいごとにそれぞれ事業実施しておりましたが、平成23年からは障がいの隔たりなく一体的なかたちで「ゆにぞん」として事業展開しております。

ゆにぞんとは、音楽用語で調和=ハーモニーを意味します。この名のとおり、仲間を思いやり、励まし、助け合う姿勢を大切に、日々の様々な訓練や活動に取り組んでおります。そして何より楽しく!そしてやる時は集中して!をモットーに今日もゆにぞんの部屋からは、たくさんの笑い声がきこえています\(^o^)/

(担当: 管理者 伊藤直子)

目次 CONTENTS

● れいんぼーTopics	1	● 令和5年度事業計画・予算・新任職員紹介	7
● 新年度にあたって	2	● こんにちは、「地域活動支援センターみやこ」です!	8
● 事業CLOSE UP!	3	● はあとふるVoice (当事者の声)	9
● Report!「福祉の現場から」	4~5	● なんでもKEIJIBAN、編集後記	10
● 令和4年度事業報告・決算	6		

新年度にあたって

宮古圏域障がい者福祉推進ネット

事務局長 戸田 忍



木々の緑が色濃くなる時期となりました。皆様には、お元気で過ごしていることと思います。

新型コロナウイルス感染症は、5月8日から法律上「第5類感染症」に移行し、世の中はコロナ以前の生活に戻りつつあります。当法人では、これまで相談支援や地域活動支援センターなどで活動を制限することもあり、皆様にはご不便をお掛けしました。今年度はウィズコロナを意識しつつ、期待に応えられるよう事業を進めるとともに、引き続き、コロナには油断のない運営に取り組んでまいります。

さて、今年度の職員体制ですが、職員の退職等がありました。新規採用により、前年度並みの職員数を

確保ができ、これまでと同様の相談支援を持続できるものと思っております。

昨年度の事務事業につきましては、4月理事会の縮小開催、また、総会の書面表決などコロナによって大変なスタートでしたが、その後の自立支援協議会や専門部会など、年間を通して概ね実施することができたものと考えております。

活動状況につきましては、大きな事業として「基幹相談支援センター事業」と「地域活動支援センター事業」があります。

「基幹相談支援センター」とは、地域における相談支援の中核的役割を担う機関として、総合的な相談業務の実施や地域の相談支援体制の強化の取り組み等をおこなうもので、宮古圏域の自治体から委託を受けて実施しています。

その役割として「①総合的・専門的な相談支援の実施」「②相談支援体制の強化の取組」「③地域移行・地域定着の推進」「④権利擁護・虐待の防止」「⑤宮古圏域地域生活支援拠点事業」を掲げています。

「①総合的・専門的な相談支援の実施」においては、昨年度の利用が実人数で887人、合計で14,523件の相談支援を行っています。これを割り返すと一人当たりの年間相談回数が16回になり、月に1回以上の相談支援を行ったことになりま

す。改めまして、利用者の皆様からの期待の大きさ、そしてその期待に応えていく責務を実感するところであり、これからも皆様には丁寧な対応を心掛けてまいります。

「③地域移行・地域定着の推進」では、障がいをお持ちの方が自ら選んだ住まいで安心して、自分らしい暮らしが実現できるように支援する事業です。

「④権利擁護・虐待の防止」については、本法人は障害者虐待防止センターとして、虐待に係る通報などの受理、相談受付、広報・啓発活動をおこなっています。

また、昨年度から新たに追加した事業として「⑤宮古圏域地域生活支援拠点事業」があります。

この事業は、障がいの重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、緊急時の受入れなど障がいの者の生活を地域全体で支える体制を構築する事業であり、緊急時の受入れ先として、社会福祉法人「若竹会」が整備した「地域生活支援拠点つむぎ」に業務を委託しています。

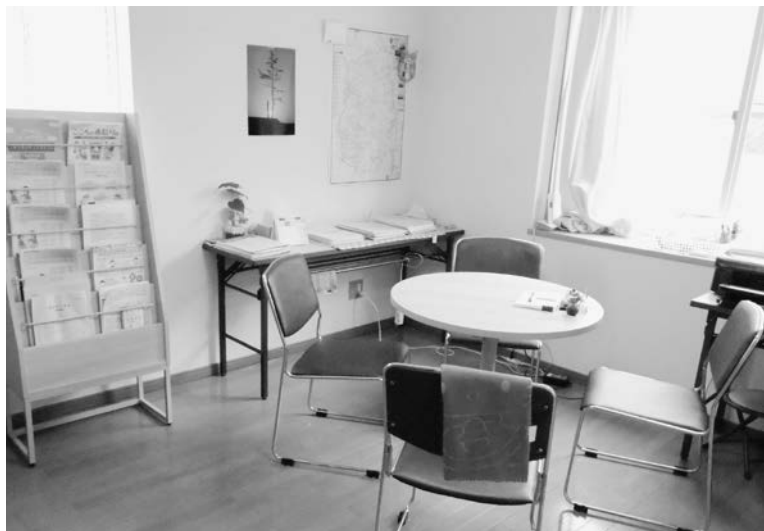
大きな事業の二つ目は「地域活動支援センター事業」です。

この事業は、障がいのある方の社会との交流を促進することを目的に、創作的活動、社会生活技能訓練（SST）、ピア・カウンセリング、サークル活動、サロン活動など様々な活

動を行っています。昨年度の利用者数は延べ2,422人を数えました。一昨年に比べると22%増となり、コロナからの状況変化がここにも現れています。今年度も、創意・工夫を凝らして利用者が満足できる企画を提供していきたいと思っております。

コロナとのかかわりが大きく変わるこの一年。レインボーネットは、職員一人一人が真摯に仕事に向き合い、皆様を支援し、穏やかで安心した生活ができるよう今年も努めて参りたいと考えます。今後とも皆様方の一層のご指導とご支援、ご協力をお願い申し上げます。





宮古圏域くらしサポートセンターは（対象地域：山田町・岩泉町・田野畑村）、生活困窮者自立支援制度に基づき、岩手県委託事業として平成30年度に宮古市宮町に事務所を開設いたしました。

当センターでは、「くらししごと・おかね」などに関するお悩みや困りごとを相談者さまと共に考え、相談者さまの意思を尊重し一人一人の状況に合わせたプランを作成し、関わりを持つよう心がけております。

相談をお受けする方法として、アウトリーチによる個別訪問を軸として、顔と顔が見

える関係から安心してお話しいただけるよう努めております。必要に応じて他制度のネットワークや関係機関と連携させていただくこともございます。

近年、これまでに経験したことのない社会情勢や環境の急激な変化に見舞われ、自然災害、感染症拡大、物価高騰など、生活が一変する状況に置かれております。感染症の拡大は相談者の年齢層にも変化として表れ、高年齢層からの相談が多かったものが、一昨年は、働き盛り世代からの相談が増加し、生活福祉資金貸付機関との連携も多くなっております。昨年度より福祉資金特別貸付の償還が始まりましたが、償還の免除や延長の相談もあり、影響の大きさを感じております。

生活困窮といえは経済的困窮をイメージしますが、事業を担当するにあたり最初に受けた研修で、情報にアクセスできない方も生活困窮に含まれると説明がありました。人と人の関わりが希薄になってきている昨今、情報があること

つながること、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）向上の一助になると考えます。

初回面談時からの人間関係の構築は難しいものですが、継続して関わることで、サポートの糸口となることを伝えてくださる方もおられると実感しております。微力ながらも地域の皆様と共に歩んでいけたらと思います。今後ともよろしく願っています。



事業
CLOSE UP!
クローズアップ

宮古圏域くらしサポートセンターにおける事業の取り組みについて
宮古圏域くらしサポートセンター
所長 森 一史

「福祉の現場から」

Report1

ヘルパーとして奮闘中です！

山田町社会福祉協議議会

山田町社会福祉協議会でヘルパーとして勤務されている、田森教郎さんにインタビューしました！

【田森ヘルパーさん】

Q1.. ヘルパーとして何年働いていますか？

田森.. 平成22年4月に入社したので、13年勤務しております。

Q2.. ヘルパーになろうと思ったきっかけは何ですか？

田森.. 母親がヘルパーをしており、自分も介護職員として働きたいと思いました。

Q3.. 男性のヘルパーとして、セールスポイントはありますか？

田森.. ①頼まれた仕事はすぐ対応するなど、フットワークが良いことです。

②体が大きく力が強いことで、体格の良い利用者さんの移動などを支えることができます。

Q4.. 男性のヘルパーとして、配慮されている部分はありますか？

田森.. 女性利用者さんの入浴介助やオムツ交換の訪問に関して、利用者さんとご家族の方に男性職員訪問の可否（受け入れが可能なかどうか）について担当者会議の際、管理者より確認してもらっています。

Q5.. 自宅での家事はどうしていますか？休日の気分転換はどうしていますか？

田森.. 妻と協力し合い、家事を分担しています。気分転換は少年野球の監督をしており、小学生に野球の指導をすることが気分転換であり、趣味でもあります。

Q6.. ヘルパー利用を考えている方に一言お願いします。

田森.. 男性職員は調理や掃除が苦手なのではないか？と思われる方もいると思いますが、調理実習や掃除の仕方、洗濯の干し方など困った時は先輩ヘルパーや同僚と話し合い、解決しながらサービスを提供しています。仕事をしっかり学ぶことで利用者さんたちに笑顔でサービスを提供できるよう心がけています。

【在宅福祉課課長補佐 佐々木 千加子さん】

Q .. 田森ヘルパーさんと居宅介護事業所の紹介をお願いします。

佐々木.. 山田町社会福祉協議会訪問介護、障害者総合支援、訪問入浴介護と3係一体となった職員13名、登録ヘルパー9名、合計22名で稼働している在宅福祉課に田森ヘルパーは所属しています。

13年勤務をして40歳を迎えた中堅職員となる田森ヘルパーについて、ご紹介いたします。

何にでも努力を惜しまずわからないことがあると、「何をすればいいですか」「これはどうしたらいいですか」と質問し、自身が理解した上でサービス提供へ繋げることができると、人材です。体も大きく力もあり、移動入浴乗車時は体の大きな男性利用者さんを持ち上げて支えてもらい、利用者さん自身もしっかり抱えて移動することができ、安心して入浴できていると思います。他の女性職員の身体にかかる負担の軽減にも繋がっていることは間違いありません。

障害者総合支援では、同行援護、行動援護ともに資格を取得し対応しております。「コミュニケーション能力も高く、笑顔が素敵な男性職員でこれからの山田町社協を担う人材です。」





Report!

Report2

訪問看護ステーションみそら宮古 スタートします!

訪問看護ステーションみそら宮古 所長 小成 祐介

今回、私は精神科に特化した「訪問看護ステーションみそら宮古」を開所します。「訪問看護ステーションみそら」は昨年、大分県佐伯(さいき)市に最初の「訪問看護ステーションみそら佐伯」が開所しました。「訪問看護ステーションみそら」は「株式会社いちから」という会社で運営する訪問看護ステーションで

す。「株式会社いちから」は、全国の訪問看護ステーションの経営者7人と大学の先生方3人の合計10人で構成されています。そこに私も11人目の取締役として参加をして、佐伯に続き全国で2箇所目の訪問看護ステーションを宮古市に開所することにしました。それは、病院での勤務と地域での相談支援事業所での学

びから「待っていては提供できない医療を訪問によって提供したい」という思いからの開所でした。

開所にあたり、スタッフは、以前病院で共に退院調整をチームで取り組んでいた仲間をお願いをしました。気心の知れた仲間でのスタートは、私が思い描く完成形のチーム

でのスタートになります。今後の組織は、訪問看護の需要に合わせて進化をしたいと考えます。

訪問看護ステーションみそら宮古は「利用される方の希望を支援するために拠点をおく」ことを理念に掲げています。私たちは、地域で安定した生活を維持することに加えてご本人が希望する未来へ進むことを応援します。今、近くで手伝って欲しいことを一緒にに行い、いずれ「一人でも大丈夫だから近くにいなくてもいいよ」と言われるまで近くでまたは遠くで応援を続けます。

新しい宮古の資源として「訪問看護ステーションみそら宮古」が開所します。私たちは、皆さんのリカバリーを応援します。

株式会社いちから
訪問看護ステーションみそら宮古
住所：〒027-0083
宮古市大通2丁目2-24
TEL：0193-65-8131
FAX：0193-65-8132
精神科認定看護師 所長 小成祐介



令和4年度 事業報告・決算

Ⅰ 法人運営の状況

- 1 会員総数 93人(団体)
○正会員 66人(団体)
○賛助会員 24人(団体)
(個人会員16人・団体会員8団体)

- 2 総会・理事会・運営委員会の開催及び会計監査の実施
○総会(1回開催)
○理事会(2回開催)
○運営委員会(2回開催)
○会計監査(4回実施)

- 3 障がい当事者・家族・関係機関・地域住民の親睦を深める事業の実施
○はあむるフエスタメントとともに行きたる社会へ
11月11日・11月13日「リーストリアみや」
内容:①映画上映会「星に語りて~Starry Sky~」
②障がい者アート移動展示会
るんびにい美術館、アトリエ作品、宮古圏域内の活動作品等

Ⅱ 受託事業の実施状況

1 基幹相談支援センター事業

- (1)総合的・専門的な相談支援の実施(相談支援事業)
○相談支援の状況
・年間の相談支援実人数 8,877人
・年間の相談支援延べ件数 14,523件
(※前年度14,743件)
○支援会議の開催
・レインボーネット主催66回
・その他開催への出席41回 合計107回

- (2)地域の相談支援体制の強化の取組(基幹相談支援センター等機能強化事業)
○宮古圏域障がい児・者相談支援連絡会議の開催
○基幹相談支援センター多職種参加型事例検討会の開催
○若手卓内基幹相談支援センター連絡会の開催

- (3)地域移行・地域定着の推進
○地域生活移行の状況
・福祉施設、病院及び圏域外からの地域移行者の状況4名
○住宅入居等支援事業(居住サポート事業)
・相談支援延べ人数60人
○若手卓内地域生活支援広域調整会議等事業(若手卓内からの委託事業)
・地域委員会の開催(3回開催)

- (4)権利擁護・虐待の防止(障害者虐待防止センター事業)
○権利擁護に関する相談件132件
○虐待防止等に関する広報その他啓発活動
・9月22日 救護施設松山荘職員研修

- (5)宮古圏域地域生活支援拠点事業
・緊急受け入れ 3人(地域生活支援拠点つむぎにおける受入)
・緊急受け入れを前提とした相談10件(地域生活支援拠点つむぎにおける相談)

2 宮古圏域障がい者自立支援協議会事務局運営事業

- (1)宮古圏域障がい者自立支援協議会(2回開催)
(2)専門部会の開催
・実務担当者会議(8回開催)
・生活支援部会
・権利擁護部会
・精神保健部会
・発達支援部会
※4部会とも5回開催

3 地域活動支援センター事業(基礎的事業及び機能強化事業)

- (1)運営会議の開催(6回開催)
(2)地活たよりの発行(毎月150部)
(3)年間の延べ利用者数 2,422人
(※前年度1,978人)
活動開催回数326回(前年度266回)

4 その他の事業

- (1)高次脳機能障がい者支援事業
○高次脳機能障がい者支援事業に係る連絡会の開催
○若手卓内高次脳機能障がい者支援事業連絡協議会への出席
○家族教室の開催

- (2)医療的ケア児等支援事業
○家族懇談会の開催

- (3)短期入所の実施「老人保健施設ほほえみの里」にて計5回(8月13日)実施

Ⅲ 障害者総合支援法等に基づく特定相談支援事業及び一般相談支援事業等

1 特定相談支援事業

- (1)計画相談支援 契約件数553件
○計画作成件数457件
○モニタリング回数1,784件
(2)障害児相談支援 契約件数35件
○計画作成件数12件
○モニタリング回数50件

2 一般相談支援事業

- (1)地域移行支援 契約件数1件
(2)地域定着支援 契約件数1件

3 障害支援区分認定調査事業(県内市町村からの受託事業)

- 宮古圏域1233件 圏域外0件

Ⅳ 障がい者の社会参加の促進・地域福祉の充実発展に寄与する事業

1 広報・啓発活動の実施

- (1)機関紙「Rainbow Net」の発行(2回/第94号、第95号)
(2)ホームページによる情報提供
(3)出前授業の実施(理解促進及び啓発事業)
・宮古市立花輪小学校(28名)
・宮古市立高古小学校(44名)

- ・宮古市立竈ヶ崎小学校(29名)
・宮古市立崎山小学校(19名)
・宮古市立第一中学校(34名)
・宮古市立津軽石小学校(37名)
・宮古市立重茂小学校(14名)
・宮古市立山口小学校(25名)
・田野畑村立田野畑中学校(79名)
・宮古市立立飛小学校(49名)
・宮古市立千徳小学校(73名)
・宮古市立磯崎小学校(68名)
・宮古市立高小小学校(16名)

2 研修会等の実施

- 就労アセスメントに関する制度説明会(生活支援部会)
4月28日 参加者10名
○宮古圏域発達支援セミナー(発達支援部会)
9月24日 Zoom開催 視聴者53名
○宮古圏域地域生活支援セミナー(精神保健部会)
10月21日 参加者37名
○宮古圏域チャレンジドットフォーラム(生活支援部会)
11月22日 参加者48名
○特別支援学校高等部2学年保護者を対象とした就労アセスメントに関する制度説明会(生活支援部会)
3月13日 参加者19名

3 地域懇談会の開催

- 若泉町 9月30日 参加者32名
○山田町 10月7日 参加者41名
○田野畑村 10月13日 参加者 田野畑中学校全生徒
○宮古市 1月24日 参加者30名

Ⅴ その他目的達成のために必要な事業

1 他の機関との連携

- 宮古圏域障がい当事者団体等ネットワーク会議の開催
・第1回 幹事会4月21日、会議6月23日
・第2回 幹事会12月15日、会議2月16日
○第54回手をつなぐ育成会若手卓大会・本人大会
10月16日(スタッフとして参加)
○卓球バレー宮古交流大会2022
11月23日(スタッフとして参加)
○第3回宮古圏域「企業との連携協議会」および「職場で障がい者を理解する学習・相談会」
1月13日(ファシリテーターとして参加)
○さらりの集い2023若手卓大会
1月14日(実行委員として参加)
○家族リフレッシュ交流 研修会
2月14日(コメンテーターとして参加)
○フライングディスク交流会 in 宮古
2月25日(競技補助員として参加)

2 職員の研修受講状況 ※延べ人数

- 相談支援に関する研修(基礎的研修、相談支援技術向上の研修) 12名
○障がい特性の理解に関する研修 17名
○ひきこもりに関する研修 5名
○自殺予防対策に関する研修 8名
○地域の相談支援体制の強化に関する研修 9名
○地域移行・地域定着に関する研修 4名
○権利擁護・虐待防止に関する研修 9名
○就労支援に関する研修 3名
○高次脳機能障がい者支援に関する研修 2名
○医療的ケア児等支援に関する研修 4名

【レインボーネット 令和4年度決算報告】

●活動計算書

Table with columns for 科目, 金額, 経常収益, 経常費用, 当期経常増減額, etc. Total net income is 43,255,815.

●貸借対照表

Table with columns for 資産の部, 負債の部, 正味財産の部. Total assets and liabilities are 53,749,607.

令和5年度 事業計画・予算

1 基本方針

NPO法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット(レインボーネット)では、障がいの誰かが安心して生活しやすい地域づくりの実現を目指して当事者団体、関係機関、事業者及び住民等と連携し、障がいの者の意見を聴き、利用者本位の障がい福祉サービスの充実と社会参加の促進を図ります。今年度も各種事業に取り組みます。

2 運営方針

- 宮古圏域4市町村から障害者総合支援法に基づく地域生活支援事業等を受託し、障がいの者の地域での自立した生活を支えます。
- 宮古圏域障がい者自立支援協議会(以下「自立支援協議会」という。)と連携し、圏域における障がい者等への支援体制に関する課題を共有するとともに、社会資源の開発や改善など地域の実情に応じたサービス基盤の整備に努めます。
- 障がい当事者団体等ネットワーク、障がい福祉サービス事業者連絡会、地域懇談会等を通じて広く地域の方々の意見を聴きながら、障がい者等の余暇活動や就業活動などの社会参加を促進します。
- 経営の安定を図るため、特定非営利活動法人としての運営を適切に行い、職員の資質の向上を図るとともに、会員の拡大を図り、会員相互のネットワークの強化に努めます。

【重点項目】

- 計画相談支援等を推進するため、基幹相談支援センターとして地域の相談支援体制の連携強化に努めます。
- 障害者虐待防止法、障害者差別解消法などの趣旨を踏まえ、障がいの者の権利擁護の推進、普及啓発に努めます。
- 入所施設や精神科病院からの地域移行を推進するとともに、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に努めます。
- 障がいの者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた居住支援のための機能として、面的整備と多機能整備を組み合わせた体制を構築し、緊急時受入等の取り組みの推進に努めます。
- 地域活動支援センター事業の充実を図るため、市町村や当事者のニーズに対応した取り組みの推進に努めます。

3 実施する事業

Ⅰ 法人運営の関係

- 法人の公正中立な適正な運営に取り組みます。
 - 総会(一回開催)
 - 理事会(三回開催)
 - 運営委員会(二回開催)
 - 会計監査(一回実施)
- 会員等に対する情報発信に取り組みます。
 - ホームページを活用した情報提供
 - 機関紙「Rainbow Net」の発行(二回)
 - 地活たより、各種イベントチラシの配布
- 障がい当事者・家族・関係機関・地域住民の親睦を深める事業として次の事業を実施します。
 - はあとふるフェスタ2023の開催

Ⅱ 受託事業の関係

- 宮古圏域4市町村から委託された宮古地区地域生活支援事業等を適切に実施します。
 - 1 基幹相談支援センター事業
 - (1)総合的・専門的な相談支援の実施(相談支援事業)
 - (2)地域の相談支援体制の強化の取組(基幹相談支援センター等機能強化事業)
 - (3)地域移行・地域定着の推進(住宅入居等支援事業(居住サポート事業))
 - (4)権利擁護・虐待の防止(障がい者虐待防止センター事業)
 - (5)宮古圏域地域生活支援拠点事業
 - 6 宮古圏域障がい者自立支援協議会事務局運営事業
 - 専門部会において、定例会や研修会、セミナー等を開催します。
- 地域活動支援センター事業
 - (1)基礎的事業
 - (2)機能強化事業
 - 自主事業 高次脳機能障がい者支援事業
 - 支援体制の整備を図るため、関係機関による連絡会を開催します。

Ⅲ 障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業及び一般相談支援事業

当事者や家族から申し出があった場合は、契約を締結した上でサービスを提供します。また、市町村から依頼を受けた場合は、迅速かつ適正に認定調査を実施します。

- 計画相談支援
- 障害児相談支援
- 一般相談支援(地域移行支援・地域定着支援)
- 障害支援区分認定調査

Ⅳ 障がいの者の社会参加の促進・地域福祉の充実に寄与する事業

- 障がい当事者の創作活動作品展示会等の開催
- 「はあとふるフェスタ」の会場に作品を展示
- 「はあとふるセンター」の掲示板等に作品を展示

Ⅴ その他目的達成のために必要な事業

- 障がい当事者団体等ネットワークとの連携強化のため全体会や交流会へ参加
- 障がい福祉サービス事業者連絡会との連携強化のため定例会へ参加
- 職員等の資質の向上のため各種研修会等へ参加
- 視察・実習等の受け入れ
- 講演会、セミナー等の開催(専門部会)
- スキルアップセミナー(生活支援部会)
- 権利擁護セミナー(権利擁護部会)
- 地域生活支援セミナー(精神保健部会)
- 発達支援セミナー(発達支援部会)
- 発達障がい学習会(発達支援部会)
- 宮古圏域4市町村で実施
- 広報・啓発活動の実施
- 障がい理解をテーマに「出前授業」を実施

【令和5年度・活動予算書】

収益の部		(単位:千円)
科目	金額	
受取会費	240	
受取寄附金	0	
受取助成金等	0	
事業収益	98,900	
宮古地区地域生活支援事業等	65,500	
相談支援事業	33,000	
認定調査事業	400	
その他収益	20	
経常収益計①	99,160	

費用の部		(単位:千円)
科目	金額	
事業費	91,011	
人件費	68,315	
その他経費	22,696	
管理費	8,149	
人件費	3,438	
その他経費	4,711	
減価償却費	0	
経常費用計②	99,160	
当期正味財産増減額③ = ① - ②	0	
前期繰越正味財産額④	43,255	
次期繰越正味財産額③ + ④	43,255	

新任職員紹介 よろしくお願ひします!



昆 かおり

4月からレインボーネットで勤務しております。生まれも育ちも盛岡で、この度初めて沿岸での生活をする事になりました。福祉に携わり約25年となりますが、現場しか知らない私にとっては、レインボーネットでの相談業務を必死になって覚えていくことからのスタートです。今までの経験を活かしつつ、沢山のことを吸収しながら、細胞を活性化させて頑張っていきたいと思ひます。

大好きな物は野球とベリーグットマン。これで生きていきます! (笑)

こんにちは、「地域活動支援センターみやこ」です!



「地域活動支援センターみやこ」では、障がい者等(身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障がい児及び難病等)を対象に、自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上、社会との交流の促進を目的に、創作的な活動、SST(社会生活技能訓練)・ピアカウンセリング等の活動、各種サークル活動を行っています。また、専門の職員を配置し、医療・福祉および地域の社会基盤との連携強化のための調整、ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発事業を実施しています。

地活センター! 元気に活動しています!

新型コロナウイルス流行から3年が経過し、5月には感染症法上の位置づけも変わりました。私たちの日常生活も変化してきました。

地活では、飲食を伴う活動の再開、参加定員を増やす等、社会の状況に合わせて内容を見直しながら活動を展開しています。みなさんのご理解とご協力のもと運営できていることに感謝申し上げます。

今年度も感染症対策を行いながら、皆さんが楽しく安心して利用できる場を提供していきます。スタッフ一丸となって取り組んでまいりますので、よろしく願っています。



今年度の活動計画を一部紹介!

「いやしの部屋」

音楽療法、ヨガ、パステルアートなど、様々な活動で癒しの時間を提供します。

「趣味サークル」

散策と軽食作りを行います。季節に合った内容の活動を提供します。

「ナイスフレンドの会」

4月から、はあとふるセンター2階に会場が変わりました。軽運動で交流を楽しみながら、リフレッシュしています。

「みんなで交流会」

夏と冬の二回、軽食作りやゲームで交流します。どなたでも参加できる活動です。

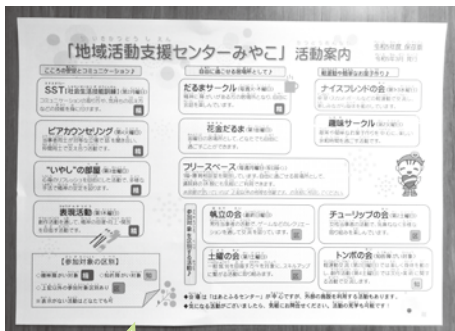
地活の感染対策!

引き続きご協力をお願いします!

- マスク着用、検温と消毒の徹底
- 活動室のこまめな換気

※今後の感染拡大状況によっては、予定の活動を中止することもあります。

「地域活動支援センターみやこ」活動案内をご覧ください!



各活動の詳しい内容を記載しています。

はあとふるギャラリー

【いやしの部屋】

参加者の皆さんで、協力し合いながら、お好み焼きを作りました。キャベツたっぷりのヘルシーなお好み焼きが好評でした(^ ^)



【トンボの会(創作)】

「好きなスポーツは?」「好きな歌手は?」「好きな場所は?」...いろいろなテーマから言葉を決めて、じっくりと書道を楽しみました。



【趣味サークル】

満開の桜に囲まれながら、お団子をいただきました(^ ^)「いいねえ」「きれいだねえ」...ゆったりとした時間が流れていました。



【サテライト活動】

遠方の地域に向き、定期的な活動を提供しています。軽運動や創作活動を通して、参加者同士交流を楽しんでいます。写真は、マンダラ塗絵の様子です。



はあとある Voice (当事者の声)

『これから、ここから、』

カラフルライフ★前編

社会福祉士 大野 みぎわさん

第36号と第37号の2号に渡り特別編としてお送りします。岩泉町で被災者相談支援やNPO法人クチエカで相談支援専門員として活動していた大野さん、岩泉町を離れどのような変化があったのか…この3年間の思いを綴っていただきました。

私は東日本大震災の復興支援員として、2013年12月から岩泉町で社会福祉士として相談援助の仕事に従事していましたが、2020年3月に先天性の脳血管奇形が破裂し脳出血を発症、左半身麻痺となりました。県内のリハビリ病院に半年間入院後、地元である関西へ戻り、転院先で3ヶ月入院した後在宅生活となりました。

9ヶ月の入院生活は、先の見えない未来について考える長い長い時間でした。

脳出血の後遺症である片麻痺の症状は、私の場合は腕や脚を動かすことが難しい運動障害と共に、物に触れても感じる事が出来ない感覚障害と、異常感覚とされる痺れが残っています。

入院初期は、独りでトイレで自分のズボン上げることも出来ず、何十年も出来ていたことが突然出来なくなりました。



『ドキドキの階段歩行もひとりで歩きたい。』

経験してみないと分からず、「受容」とか「共感」とか簡単に言えないなって、動かない腕と脚を眺めながら、何度も何度もこれまで関わってきた仕事を思い出

して、ベッドの上では一生分の涙を流しました。

入院中の医療スタッフとの関わりの中で、ベテランのPTに「セラピスト皆んなが正しいとは限らないから、疑問も持ちながらリハビリに取り組んで欲しい。

喧嘩するくらい、意見のぶつけ合いを沢山して欲しい。」と言われたことが、特に記憶に残っています。これは対等な立場だから出来る事だと思えます。入院初期に話してくれたことで信頼関係が成り立ち、今後の人生を左右する、貴重な6ヶ月間を安心して預けることが出来ました。

歩行訓練と身の回りのケアを自分で出来るようになるための訓練を行いました。誰にでも、出来る限りこれまでの暮らしの状態に近づけたいという思いがあるとします。ただ、その思考に辿り着くまでにはとても時間がかかります。本人が立ち止まっているように見える時は、思いがぐるぐるしている最中で、まだ感情を表出出来ない段階だったりします。

「ぎこちなくても自分のことは自分でやりたい。考える時間が欲しい。なので、支援者には少し離れた後方や隣から、同じ目線で進む方向を照らしてくれたり、オロオロしていたら「何か手伝える事ある？」と声を掛けてくれたり。そんな位置づけでいてくれる事を望みました。

関わったセラピスト達は、個々に「私」を理解しようとしてくれて、その姿勢は不思議と自然に伝わってきました。

笑いと涙とユーモアに包まれていたリハビリ入院期間は、それでも、コロナ禍で面会制限のあった、ガラス張りの病院で。どこか無機質で真っ白な環境だったように思います。

(後編へつづく…第37号掲載)



『3年ぶりの海。歩みは続くよ、どこまでも。』

なんでも KEIJIBAN

スキルアップセミナー 宮古圏域発達支援セミナー

●日時：8月5日(土)

【第1部】10～12時 講演
【第2部】13～15時

トークセッション

●会場：イーストピアみやこ(会場とオンラインのハイブリット開催)

●内容：講演 テーマ「発達障がい」思春期のこころの変化(仮)

トークセッション

●講師：東京女子大学現代教養学部心理・コミュニケーション学科 教授 前川 あさ美 氏

講師



●ゲスト：漫画家

かなしろにゃんこ。氏

発達に凸凹がある息子さんとのドタバタ育児コミックエッセイ「うちの子はADHD」を2009年に発売。その他、多数の書籍を発売。

●定員：会場 1000名

オンライン (Zoom 利用) 50回線

宮古圏域地域生活支援セミナー

●日程：10月

●会場：未定

●内容：依存症に対する支援の実践を知る

●対象者：関係者、当事者、家族、興味がある方

はあとふるフェスタ2023

●日時：11月20日(月) 13～17時

21日(火)～24日(金) 9～17時

●会場：イーストピアみやこ

●内容：(多目的ホール、2階通路)

●内容：①パネル展示

②映画上映会「梅切らぬバカ」

※2回上映

△上映日時▽11月23日(木)

①10～11時半

②13～14時半

△鑑賞料▽無料

△定員▽各60名(事前申し込み優先)

老いた母と自閉症の息子が、地域コミュニティとの交流やグループホームの入所を通して自立の道を模索する姿を描いた映画です。母親を加賀まりこさん、自閉症の息子をお笑い芸人・塚地武雄さんが演じています。

お知らせ
記載しております各種セミナーは、新型コロナウイルスの感染状況に応じて延期もしくは中止となる場合がございます。あらかじめご了承くださいませ。よろしくお願いいたします。

社会資源ガイドマップ

平成26年に発行した社会資源ガイドマップを改訂し、現在第3版の準備中です。前回の改訂から4年が経過していることから、宮古圏域の新たなサービスを紹介するとともに、事業所や関係機関の最新情報などを掲載いたしました。ご協力いただいた関係機関の方々、本当にありがとうございます。



●問い合わせ先 レインボーネット事務局
TEL 0193-64-7878
FAX 0193-77-3921

編集後記

今回「ヘルパー」さんの紹介はどうかと思ひ、山田町社会福祉協議会さんに原稿を依頼させていただきました。現時点においてヘルパー利用をしている方々、また、ヘルパー利用を考えている方々にも意見や感想を聞いてみたいものです。

【佐々木

今号のはあとふるVoiceに載りただけました。大野さん、原稿の依頼を快諾していただきました。支援者から当事者となりました。大野さんのお話は次号も掲載しますので、楽しみにしてくださいね。

【大内

宮古市には外国の大きな客船が入港するようになり、港に見に行ってみました。とても大きくて船ではなく、建物みでした。その日は、乗客の外国の方が沢山宮古の街を歩いていて、にぎやかな様子にワクワクしました。今度は、「こんにちは」と挨拶してみたいなと思ひます。

【柳北

少しづつですがイベントが復活してきました。今年は宮古の夏祭りがある。屋台を見かけると普段食べているものでも一段とおいしく見えるのはなぜでしょう。でも全部買っわけにはいかず、どれを食べようか毎回すごく悩んでしまいます。(全巻、皆さんの好きな屋台の食べ物はありますか?)

【上田

発行

NPO法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット(レインボーネット) 若手県宮古市緑ヶ丘2番3号 はあとふるセンターみやこコア TEL 0193-64-7878 FAX 0193-77-3921 E-mail: info@myako-rainbow.com URL: http://www.myako-rainbow.com/

◆発行責任者 会長 川屋裕之

◆企画・編集

レインボーネット事務局

かい いん ぼ しゅう

会員募集

NPO法人
レインボーネットの活動を
応援して下さる方を
募集しています。

個人	正会員 1,000円 賛助会員 500円
団体	正会員 5,000円 賛助会員 1,000円

◆お問い合わせ先◆
レインボーネット事務局
TEL 0193-64-7878
FAX 0193-77-3921